

広報誌

# ほのぼののだより

～ほのぼのとした暮らし、ほっとできるひとときを～

第11号

秩父市社会福祉事業団

令和3年9月発行



撮影場所：秩父ミュージックパーク

## ～もくじ～

- 新理事長挨拶 ..... P 2
- 秩父市社会福祉事業団の歩み ..... P 3
- 新施設長挨拶 ..... P 4
- 長寿荘・偕楽苑暮らしの風景 ..... P 5
- 連載『風に吹かれて』 ..... P 6、7
- わたしのたいせつなもの ..... P 8
- 私のお気に入り ..... P 9
- 連載『今ありて』 ..... P 10
- 今日も、こうして、土を耕す ..... P 11
- 専門職のコーナー ..... P 11
- Information ..... P 12

## 表紙の写真

秋風の中、街にそそぐ月の光。過ぎ行く時代、移ろい行く世界、そして、変わらぬ人々の営み……。すべてを等しく照らし、満ち欠けを繰り返す。空を見上げて想うのは、あなたのこと。明日は、満月。

# 新理事長 就任あいさつ

きたぼり あつし  
秩父市社会福祉事業団理事長 北堀 篤



秩父市長に就任後間もない5月7日の理事会において、理事長に選任いただきました。  
会場となったほのぼのマイタウンは、久々に訪れましたが、大変懐かしく感じました。この施設は、特別養護老人ホーム偕楽苑と養護老人ホーム長寿荘の建て替え計画に基づき、秩父市が平成12年に建設した複合型の高齢者福祉施設です。

平成5年に策定した秩父市高齢者保健福祉計画に位置づけた事業でしたが、急速な人口の高齢化に備え、介護を行う偕楽苑の拡大やデイサービス、ホームヘルパー、居宅介護支援など高齢者福祉事業全般を担う秩父地域の中核的施設として整備しました。

私は当時、秩父市議会議員として施設の建設計画や運営主体を市直営から福祉法人である社会福祉事業団の設立・移行などを推進し、施設の開所式では埼玉県議会議員として出席し、お祝いを述べさせていただきました。

この度は、理事長として法人の経営、事業の運営を担当させていただくことになりました。「ほのぼのマイタウン」には常時170人の方が居住されているほか、デイサービスやホームヘルプサービスなど多くの高齢者の介護や生活の支援を行っています。この他にも高篠や上吉田にも運営する事業所があり、約800人の方へ様々なサービスを提供しています。

また、昨年8月には2歳から6歳の児童発達支援、6歳から18歳の放課後等デイサービス、障がい者生活介護、高齢者デイサービスを行う共生型福祉施設として「にじいろテラス」を開設し、障がい者福祉事業への本格的な取り組みを始めました。

少子高齢化の時代ですが、障害を持つお子さんの数は増えているという統計もあります。たとえ障がいを持っていても助け合って自立した生活が営めるように、就労などを通じて社会参加ができるように、そんな思いを込めて新たな事業への取り組みを行うとともに、高齢者福祉事業の更なる充実を図ってまいりますので、皆様には今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。





## ～秩父市社会福祉事業団の歩み～

- 平成 10 年 9 月 17 日 『社会福祉法人 秩父市社会福祉事業団』 設立認可
- 平成 11 年 4 月 1 日 『秩父市立養護老人ホーム 長寿荘』 事業開始
- 平成 12 年 4 月 1 日 『秩父市特別養護老人ホーム 偕楽苑』 事業開始
- 『ほのぼのマイタウン（通所介護、訪問介護、居宅介護支援介護）』 事業開始
- 平成 12 年 8 月 1 日 『秩父市特別養護老人ホーム 偕楽苑 短期入所生活介護』 事業開始
- 平成 19 年 4 月 1 日 『秩父市上吉田複合老人福祉施設』 事業開始
- 『秩父市上高齢者生活支援ハウス 吉祥苑』 事業開始
- 平成 19 年 5 月 1 日 『秩父市上吉田デイサービスセンター』 事業開始
- 平成 19 年 11 月 1 日 介護保険事業名称変更
- ほのぼのマイタウン（通所介護）⇒ 『蒔田デイサービスセンター』
- ほのぼのマイタウン（訪問介護）⇒ 『秩父市ヘルパーステーション』
- ほのぼのマイタウン（居宅介護支援事業）⇒ 『秩父市社会福祉事業団 居宅介護支援事業所』
- 平成 21 年 4 月 1 日 『秩父市高篠デイサービスセンター』 事業開始
- 平成 23 年 4 月 1 日 秩父市重度心身障害者通所施設『ふあいん・ユウ』 事業開始
- 平成 28 年 3 月 15 日 『障がい者相談支援センター ほのぼの』 指定特定相談支援・指定障害児相談支援 事業開始
- 平成 30 年 4 月 1 日 『放課後等デイサービス ゆくる』 事業開始
- 令和 2 年 4 月 1 日 『居宅介護支援事業所 ひだまり』 事業開始
- 令和 2 年 8 月 1 日 『にじいろテラス』 開設
- 『寺尾デイサービスセンター』 事業開始
- 『星の子教室』 事業開始

山が一番好きなんだ。次は、雨と川と…。水が無いと絵にならないんだよ。山だけじゃダメなんだ。ここでの生活、いいねえ～、最高だよ！！なんでも、その時その時がすごく楽しんだよ。ぼっち、年をとったけど、おしゃべりをするのが好きなんだよねえ～。これから、違う方向にも行ってみたいよ。怪我しないように気をつけなくちゃ。人の迷惑にならないように生きていきたいね。楽しいのが一番だよ！！

偕楽苑 富樫さん



# 施設長就任にあたって

長寿荘・偕楽苑施設長 加藤 孝



日頃より当施設に対しまして、利用者の皆様をはじめご家族、地域の皆様等、多くの方々に温かいご支援とご協力を賜り、心からお礼を申し上げます。

この度、令和3年4月1日付け人事異動により、養護老人ホーム長寿荘及び特別養護老人ホーム偕楽苑の施設長に就任いたしました加藤孝と申します。

現在のコロナ禍において、若輩者である私が、このような大役を仰せつかり、その重責を痛感しております。また、何より利用者の皆様、ご家族の皆様におかれましては、ご面会を休止させていただいておりますことを深くお詫び申し上げます。

施設におきましては、5月に利用者の皆様と職員の新型コロナワクチン接種が始まりました。偕楽苑嘱託医の勅使河原正敏先生、長寿荘嘱託医の石塚大輔先生には、初めてのワクチン接種ということもあり、準備から接種後の体調観察まで、本当にご協力いただきました。おかげさまで心配された大きな副反応もなく、無事終了することができました。当事業団の産業医でもある勅使河原先生からは「接種は自分のためにやるのではないです。人のためにやるのです。」と不安を払拭する言葉と従事者に対する使命感をお伝えいただきました。

当事業団には「人のために役に立ちたい」という動機で介護の仕事を選んだ職員が多くいます。私もその思いを胸に20数年前に事業団へ入職しましたが、人の役に立つどころか、人生の先輩である利用者の皆さんに教えてもらうことばかりです。入職当時に出会ったある男性利用者の方からは、畑作業や植木の剪定、廃材を利用したオブジェ作りなど色々とお教えいただきました。みんなが喜んでくれるならと労を惜しまず取り組まれていた姿が、この人らしい「人のため」の姿でした。人と分け隔てなく接し、一緒に喜んだり悲しんだり、人に対する優しさを一番教えてくださった気がします。

雨の日も風の日も皆のために支え合い、一緒に過ごしているんだと温かい気持ちになれるところがこの入所施設の良いところではないかと思っております。これからも皆様が元気に、楽しく、安心して過ごしていただけるよう、時にはご家族に成り代わり、皆様の隣に寄り添わせていただけると幸いです。今後ともどうぞご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。





それぞれが、それぞれに、暮らす日々・・・  
あなたの大切な時間は、私の大切な時間・・・  
大切な今を共にして

## 長寿荘、偕楽苑 そこは、暮らしの場・・・



「山路を登りながら、こう考えた。智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角に人の世は住みにくい。」夏目漱石の小説『草枕』の冒頭文です。

そして、こう続きます。「住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。人の世を作ったものは神でもなければ鬼でもない。矢張り向う三軒両隣りにちらちらする唯の人である。唯の人が作った人の世が住みにくいからとて、越す国はあるまい。あれば人でなしの国へ行くばかりだ。人でなしの国は人の世よりも猶住みにくかろう。越す事のならぬ世が住みにくければ、住みにくい所をどれほどか、寛容で（くつろげて）、束の間の命を、束の間でも住みよくせねばならぬ。・・・」と・・・。

物語の内容はともかくとして、人と人との間で起きることはすべて、どこか「可笑しみ」を感じます。誰かと互いに可笑しみを感じながら過ごすことが出来たなら、その時間は豊かになるように思います。

私たちはたくさんの方と、人と人として出会います。そして、私たちは人とふれあうことを生業としてしています。福祉を志す中で出会った言葉に、「この子らを世の光に」という言葉と、「施設に暮らしをきずく」という言葉があります。

わたしたちは、新施設長のもと、皆様のお力添えを頂戴しながら、たしかな暮らしの場を長寿荘、偕楽苑に築いてまいりたいと思います。

暮らしの中で、ひとりのひとりがその人らしく過ごし、誰もが等しく放つ輝きを互いに温かい気持ちで分かち合い、互いの喜びとして感じたいと思っております。そして、施設で過ごす方々、その方にご縁のある方、地域の皆様とも、ふれあいをもつことで、心の中のどこかに何方かと同じような思いを持つ瞬間があったなら、このうえなく幸せです。そこに人がいる、「可笑しみ」を感じながら。

①

## 連載 『風に吹かれて』 ～心のかたちを知りたくて～

・・・もし心に形があるならば、もし心に色があるならば、たしかな思いを丁寧に紡いで綴ります。

### 『寄り添い合って』

上吉田デイサービス利用者 小菅 伸江

夫と連れ添って40年が経ちます。夫は兎に角多趣味の人で一緒にいて楽しい人、面白い人、時々冗句やらだじゃれを云ったり喧嘩になりません。

先ず職業でもある写真全般、何時も大きなカメラを胸にぶら下げている姿がとても印象的、似合う人！！いつ何時でもすぐに撮影できる用意です。山が好きで秩父山岳会に入会し、たくさんの山々、登山の略歴がありました。そして毎年一回、モデルさんを連れて伊豆七島の島々へも出かけて居ました。私も同行の思い出もごさいます。種々の思い出話をはじめると切りがありませんでした。うれしそうに聞かせてくれるのです。又一時SLブームがありましたネ。夢中になって、追いかけて追いかけて撮影、当時私も一緒になってお手伝いしましたネ。グランドゴルフ会長等、一時盛り上がりもしておりました。小学校の同級生と『けやき会』という会を発足させ様々な活動を行っていました。平成5年、同級生が69歳となったこの年には、『最後の証言者』という題の本を出版することが出来、図書館にも寄贈しました。『けやき会』の名称は、今も吉田小学校に堂々と伸びゆくけやきの木にちなみ名付けられたのだそうです。

私も妻として又、パートナーとして此の人の人生をより豊かに有意義に手助けできるような人間でありたい思いで生きて参りました。

昭和16年、当時は大東亜戦争という戦争が勃発し、召集令状を受け茨城県霞ヶ浦にて入隊だったと聞かされています。もうその頃、戦禍が激しくなって来て外地に出ることはなかったそうです。そして、昭和20年8月15日終戦となり帰郷、故郷に帰っても何の仕事もなく、静岡の農家でみかんの収穫作業の手伝いに行ったりしたと聞いています。当時の東京は焼野原、敗戦後の日本は言葉では言いつくせない無い無いづくし、ひどい状況でありました。

そうした中、兄貴から紹介があり秩父市内で従兄弟が営む写真館へ秩父夜祭りの仕事を手伝いに行ったのが、写真業としてのきっかけだそうです。写真館は、大勢の来客があり多忙で大変な仕事だったそうです。昔は写真屋さんにはいかないと写真を撮ることが出来ない時代でしたから。夫が働いた写真館には、数名の弟子入り人が来られたそうですが、「厳しい修行の中で、一人前になったのは一市さんだけでした。」と、夫の先生の奥様から伺っております。修業時代、消防団員としても活躍し、たくさんの仲間との付き合い、いつも人気者だったそうです。それから8年間の修行を積み、故郷である吉田町で写真業を始めることが出来たのです。

店を構えて数年後の昭和32年、吉田町であった大火で家を焼失しました。その時、懸命に大切なものを河原に出して守ったそうです。「俺だけじゃない。みんな困ってるんだ。」と、自身に云い聞かせながら頑張ったと聞いています。苦勞をした若い日のことも、夫は、いつも通り穏やかな顔で私に話をしてくれました。

夫は、平成19年春、始まったばかりの上吉田デイサービスにお世話になりました。この頃、急に前倒しに転んだりするようになっていました。以来、平成28年まで足掛け10年間お世話になりました。感謝です。職員、利用者共、吉田町生まれの人達ばかり、みんな仲良く家族的に毎日を過ごされたように思っています。行く年齢と共に自分自身で運転もままならずして、デイサービスでのお出掛けを唯一の楽しみにしていたようです。季節折々の風景など観察し乍ら、みんなの写真を撮ってあげたり賑やかに楽しまれていた様に思います。戦禍の中、生死を共にし、生きて帰ってきた方が、今、デイサービスを利用されています。デイサービスでの時間は、夫にとってとても大切な日々であったと思います。

その後、偕楽苑に入所した夫が亡くなって、早い物で3年になります。私は以前大きな病気を煩っている関係上、その後の体調が悪くなくて、現在は自立困難の毎日を頑張っている一人生活です。かつて健

康で自由がままに自分の思い通りに生活出来た日のことが、嬉しく、懐かしく思い出されて参ります。しかしその反面、人間は所詮弱い物です。一人では生きられません。今の生活に負けそうになるときもごさいます。世の中は有難いもので周囲の人々のご親切に支えられ助けられての毎日があります。そして、夫が後押しをしてくれています。神様からいただいたこの命は有難く受け止めて、大切に生きて行かねばと、我が身に云い聞かせての一日一日が暮れていきます。

若い頃、私は仕事の関係で、秩父を後にしました。そして妹も。私は東京、妹は横浜で暮らしました。二人共に喜びも悲しみも幾年月、いろいろありましたネ。何事があってもお互いに話し合い助け合い乍らの人生の並木道だったように思います。

夫に続いて今、私と妹が上吉田デイサービスにお世話になっています。妹とは、相談したわけではなく、偶然に、本当に偶然と云うそのままに・・・一緒にお世話になることになりました。これも神様のお導き、切りはなすことの出来ない深い縁の結びつきが繋がっていたものと思います。大切に参ります。上吉田デイサービスでの生活、今ではこのことが一番です。生甲斐になってくれています。体調が続く限り、ずっとお世話になれたら、と考えているところでございます。

「今日があれば明日が来るさ」明日への光を探し求めて元気を出していこう。こんな自分自身にご褒美を上げたい！！

齢を重ねた今、心に残る歌があります。私の母校の校歌です。

雄々しい両神	気高き武甲
秩父峯おろし	この学び舎に
小鹿の社	鎮まる里の
栄をきずき	国につくさん

【Heart. 21】



上高地に遊ぶ



ご主人の小菅一市さんが撮影した旧上吉田小学校と武甲山の写真です。小学校の写真は、学校に寄贈されていたものを、現在、上吉田小学校跡地に建つ吉祥苑に飾らせて頂いております。そして、採石が始まったばかりの頃の武甲山の雄姿。

いずれも、私たちの心の故郷を写し残して頂きました。

# わたしのたいせつなもの

## ～星の子教室に想いを寄せて～

20数年間、たくさんの方々の思いが集まって、たくさん子どもたちを育み、多くの親御さんを支えてきた「星の子教室」。それまで秩父市が運営していた「星の子教室」は、その運営が民間に移譲されることとなり、平成29年10月、運営に関しての公募が行われました。運営を受託すべく応募し、その年の12月に行われた秩父市の関係者を前にしてのプレゼンに臨んだ時の気持ちは忘れ得ません。

これまで、たくさんの方が積み重ねてきた思いや実践の重さ、さらには、現在、利用されている人たちの思いにこたえる使命、何とも言いようのない覚悟が必要でした。そして、「これまで通り、安心してご利用いただけるように・・・、少しでも私たちらしい施設になるように・・・、皆様が必要としている物はなんだろう・・・」と、様々な思いが胸に去来しました。

令和2年8月、「にじいろテラス」が開所し、「星の子教室」は秩父市の事業を継続する形で再スタートしました。それまで勤めていた殆どの保育士の方が引き続きお勤めいただくこととなりました。私たちにとって、これ以上に心強いことはありませんでした。

この一年、試行錯誤の連続でした。今、「にじいろテラス」には、子供たちの元気な声が響き渡っています。子どもたちの成長はとても早いものがあります。それに合わせて、保護者方の悩みも刻々と変わっていきます。保護者皆様の思い、子どもたちの思いを正面から受け止め、一緒に悩み、一步ずつ前に進んでいきたいと思えます。そして、皆様と共に成長していきたいと思っております。

「星の子教室」に出会えたこと、「星の子教室」で出会えたことが、それぞれにとって、一生の宝物になることを願って。

## 『また会う日まで』

星の子教室 前管理者 持田 雅史

一緒に過ごした時間こそ短い、そこに寄せる思いは他の職員とかわらない。「今日はどうな一日になるだろう」毎朝が初日のような気分だった。「初心忘るべからず」いまでも自分に言い聞かせている。

場所が移って、今までできていた活動ができなくなったというのは嫌だった。もちろん、全てが良くなったとは思っていない。建物は新しくきれいではあるが、園庭がせまくなり、室内の音が反響する、県道に面しているため車も多い、散歩に出かけるときの安全確保にも細心の注意をはらう。季節ごとに浮き彫りになる課題も多く、ただただみんなで工夫をしながら模索する日々が続く。

コロナ禍で施設内の交流も制限され、複合施設の強みが活かされずにいた。そのことが悔しいと思いつつも、通ってくるすべての人の健康に配慮しなければならない。もやもやとした葛藤が続く。そして、感染対策をとりながら数回の交流の場を持った。お年寄りが子どもたちを見る目は、孫やひ孫を思うような優しい目をしていて、自然と周りも笑顔になる。

ある日、にじいろテラスの近所にあるいちご園でいちごの摘み取り体験をさせてもらった。「実がなっているものを自分の手で摘み取って食べる」そんな体験をしてもらいたい、いちご園に相談にいくとオーナーさんは快く了承してくれた。ハウスに入ったときの甘いにおい、大きないちごを見つけたときの子どもたちの笑顔が思い返される。貴重な経験をさせてもらえたことに感謝しつつ、地域とのつながりを感じた。他にも、近所の方が自分の家で取れたブルーベリーや栗など旬のものをもってきてくれる。そんな地域の温かみを感じながら、地域に支えられていることを知る。

地域で、施設内で、そんな交流が日常的にできればどんなに楽しかっただろう。遠くなく、そんな日がくることを願っている。修了した児童との再会、成長した姿をみせに星の子教室に来てほしい。きっとまた会える。そんな日までみんなの笑顔や頑張りを遠くから見守っていきたい。

『風に吹かれて』【Heart. 22】

# わたしの お気に入り

## 職員の趣味 を紹介♪

児玉 侑奈  
(ゆるく職員)



『あるこう あるこう わたしはげんき あるくのだいすき どんどんいこう♪』  
となりのトトロのオープニングテーマ曲でもある『さんぽ』の曲は私のテーマ曲です。歩くことは私の健康と心の支えになってくれます。休みの日は朝起きたらすぐに準備をして、散歩に出かけます。「今日ほどのコースを歩こうかな?」、自分のお気に入りのコースが幾つもあります。そして、それぞれのコースに名前をつけるのも楽しみの一つとなっています。

散歩に出掛けると、「普通、早歩き、小走り」と歩くペースに強弱をつけながら、およそ1時間~1時間半ほど歩きます。休みの日で天気が良ければ1日に3コース歩く日も…。

私にとって散歩が大切な趣味となったのは、仕事の中で障がいを持つ子どもたちと散歩をすることが多かったのがきっかけです。子どもたちと散歩をする時は、危険のないように先導したり、付き添ったりできるように、心に余裕を持つことも大切です。そのためには常に自らの体力の向上を図る必要があると感じるようになりました。最初は「体力づくり」のために散歩を始めました。「体力づくり」だけでなく、散歩をしていると自然を感じながらリラックスでき、抱えている不安や悩みも忘れることができ、「ストレス解消」にもなります。

そして、普段は車を運転して通る道も歩いて通ると、違った風景や雰囲気を楽しむことができます。道行く人と仲良くなることもでき、今では散歩途中に人と出会うと世間話を楽しむこともあります。体力も付くし、気持ちも爽快、新たな出会いや発見もあって、散歩は私にとっていいことばかり…。

「外を歩くのってなんて楽しいのだろう!!」、散歩は、いつしか私にとって生活の中で欠かすことのできないものになりました。

「私がいつでも一緒に歩くよ!一緒に走るよ!」と、散歩で培った体力をもとに、元気一杯、笑顔いっぱい、全力で子供たちと関わっています。すぐには疲れられない!!いざという時、すぐに誰かを助けられるような俊敏な動きを身に付けられるよう、これからも楽しみながら散歩に励んでいきたいと思えます。

さて今日も歩こうか!これからも、私は私のために、そして、誰かのために歩きます。

## 侑奈のおすすめ散歩コース

【聖地公園コース】季節によっていろんな花が素敵です。秋は柿の実が落ちており、踏まないように気をつけて…。風にゆれる木々の葉音を感じたり、季節感いっぱいのコースです。

【虚空蔵様コース】第一小学校の脇道から坂道と階段を歩きます。慣れてくると軽々と駆け上がれるようになります。ここから、聖地公園コースに流れてもよいです。お手軽体力づくりにもってこいです。

【ミュージックパークコース】南口~北口までの3km往復コース、健脚の道コース(山道)などミュージックパーク内にはたくさんのコースがあり、自由にコースを設定して歩けます。秋のイチョウはとてもロマンチックです。でも、足元の銀杏には注意してくださいネ!

【山道コース】聖地公園~札所11番への山道コース。夏はセミやカブトムシにも出会うことができ、秋冬は枯れ葉を踏む音を楽しみながら歩くことができます。ハイキング気分、自然を満喫できます。



【浦山ダムコース】500段の階段を昇ります。  
休憩は入りません。頂上を目指して駆け上がるのみ。  
気力、体力強化コースです。  
あと、時の運があれば無敵です。  
まだまだ、魅惑のコースがたくさんあります。



# 連載 今ありて ～この一瞬の煌めきを永遠に～



町田テル子  
(長寿荘職員)

## 『コケッココー!長寿荘に朝が来た。』

30代の時、布おむつを畳むボランティア活動に参加したことが、きっかけでした。来た道、行く道、自分の将来を感じる瞬間がたくさんありました。

平成11年9月、前の職場の上司に「あなたならできる」と背中を押され、養護老人ホーム長寿荘を見学しました。その時、「ここはミシン室です」と説明を受け、施設のことを何も知らない未経験の自分でしたが、綻びやボタン付け、縫物、日常のお手伝いはできるのかな?と思い長寿荘で働くことになり、あれから、20数年がたちました。

昔の長寿荘は縁側から庭に出て、植木の手入れ、庭掃除、洗濯干し、夕方になると七輪焜炉で豆炭を熾しあんかの用意。それぞれが協力しあって、のどかな生活でした。

平成12年ほのぼのマイタウンへ引越し。引越しはとても大がかりでしたが、みんなで協力してなんとか新しい生活を始めることができました。ほのぼのマイタウン3階に引越した長寿荘は、東から入る朝日が眩しく、時にはベランダから見下ろす雲海を眺めることのできるとても良い環境です。

宿直明けの朝。携帯の目覚まし『コケッココー』と鳴り響くと、ある利用者さんがベランダに行き、一生懸命ニワトリを探していました。「ここにいるよ」と私が携帯を見せると、それから宿直のたびに5時半から6時まで、ニワトリの鳴くのを待って一緒に過ごしました。

「おはようございます。ニワトリに起こされて気持ちがいいです。ニワトリは素直で卵を産むから幸せです。トトコンコンチッチ」、いつも、嬉しそうに昔の話をしてくれました。寝る前になると「明日はニワトリが鳴く?!」というので、私が「5時半に鳴くよ」と約束すると、ホッとした表情をして床に就かれたのは、何気ないことでしたが、大切な忘れられない日常です。

カラオケ、民謡、料理教室など、一緒に色々なことを楽しみました。おつきりこみ、たらし焼き、たくさん料理を一緒に作って味わいました。クリスマスリースや正月飾り・・・、雪が降れば雪だるま、雪でデコレーションケーキを作りステーション前に飾ったりもしました。「外は寒くとも、暖かい気持ちになって欲しい」、そんな思いがありました。ある利用者の方が「仕事ばかりをして過ごしてきた、長寿荘に来て何もかもが初めて体験し、とても幸せです」と、一緒に作って部屋に飾ったクリスマスリースをじっと眺める姿が今も私の心に残っています。

現在、長寿荘の最高齢の方は98歳です。徐々に、徐々にと変わりゆくものがあるけれど、明治、大正、昭和、平成、令和と激動な時を歩んでこられた、人生の大先輩の皆さんです。教えていただくこともたくさんあり感謝しています。長寿荘での生活は、何でもみんなで協力し合って日々過ごしています。『話を聞く』、『話を伝える』当たり前のように難しいことです。『絆』を大切に安全で安心して暮らせるように日常生活のお手伝いをしていきたいと考えています。

『風に吹かれて』【Heart.23】

おはようございます。6時30分になりました。起床です。

本日も、9時より朝の体操を行います。ステーション前にお集まりください。東の窓から朝日が照らす。



## 今日も、こうして…、**土を耕す**

新型コロナウイルスの影響もあり、外出行事やお客さんを呼んでの行事がなかなか出来ない状況が続いています。そんな折、知恵を出し合って毎日が楽しくなるように工夫して過ごしています。

あちらこちらの畑に野菜を植えて育て始めました。畑の先生の指導のもと、一人一人が体力に合わせて、土を耕し、種を蒔いて、みんなで協力して、お世話をして・・・

みんなで、おいしく食べることを目標に育てています。



## 専 門 職 の コ ー ナ ー

今回のテーマ 『人生会議って聞いたことがありますか？』

秩父市社会福祉事業団 居宅介護支援事業所 ケアマネージャー 加藤 恭平



前回の広報誌でラジオに出演させてもらったことをお伝えさせて頂きました。「聞いたよ」と言ってくれる方から「出るなら教えてくれればよかったのに」と言ってくれる方までいらっしやって、とてもありがたいと感じています。そんな中、聞くことが出来なかった方から「何を話したの?」と聞かれることが多くありました。今回は話をさせてもらったメインテーマである「人生会議」について少し話が出来ればと思います。

皆さんは人生会議という話を聞いたことがありますか?厚生労働省のHPでみると「人生会議」とは、もしものときのために、その人が望む医療やケアについて前もって考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取り組みの事と説明があります。この説明の中で重要なのは、前もって考えておくことです。なぜ重要かという、病気によって、話が上手に出来なかつたり、意思表示が出来なくなってしまうこともあるからです。なので医療従事者や介護サービスの方と話し合いの機会があれば、今後どのような生活を送りたいか、自身で決められる状態のときには伝えておくことで、自分らしい生活を最後まで送れるようになります。これが人生会議を行う良さです。

しかしこれだと人生会議をしようと言ってもなかなか出来ないと感じてしまいます。ですから私としては、周りの家族や友人、関係者に自分がどうい生活を送りたいのかを伝えておく方がいいのではないかと考えています。例えば、還暦や退職を迎えたときなどは今後の人生をどう生きたいか考えるいい機会だと思います。自分で考えたことを家族に話し意思表示をしておくことで、もし介護が必要な状態に急になってしまっても周りがサポートしやすくなるでしょう。結果的に自分の思う生活を送ることが出来るかもしれません。

人生会議と難しく考えず、普段からのコミュニケーションが人生を楽しく生きるポイントとなるかもしれませんね。その中で私たちに思いや生き方のことを伝えてもらえれば、とてもうれしいです。これからも、皆さんとたくさんのお話をさせていただきたいと思っています。よろしくお祈いします。

## コロナワクチン接種について

当事業団では、入所施設である養護老人ホーム長寿荘、特別養護老人ホーム借楽苑において、先行して新型コロナウイルスワクチン接種を事業所内で実施しました。職員を含め195名に対して無事に2回目まで終了致しました。続いて、生活支援ハウス吉祥苑の入所者及び職員にも、産業医である勅使河原医師の協力をいただき2回の接種を行うことが出来ました。

また、職員は定期的なPCR検査も実施しています。今後も気を緩めることなく、手洗い、マスクの着用、密を防ぐなど基本的なことを徹底し、法人全体で感染症防止に取り組んでまいります。

コロナの終息がなかなか見えず、引き続き面会制限等設けさせていただいております。利用者の皆様が少しでも安心してご利用いただけるよう対応してまいりますので、ご理解ご協力の程、よろしくお願いいたします。

## 職員募集

令和2年8月、にじいろテラスを開所し、1年が経過しました。おかげ様で利用者も徐々に増加し、事業も軌道に乗ってきました。当法人では、高齢者福祉並びに障がい者福祉の更なるサービス向上と新規利用者の増加を目指し、職員を募集しています。今年度第1回の職員採用試験を7月11日、第2回目を9月19日に実施しましたが、今後も下記の通り採用試験を予定していますので、詳細は当法人ホームページまたはハローワーク求人票をご覧ください。なお、見学等随時受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせください。無資格、未経験の方もお待ちしております。

【正職員】選考日：令和3年11月14日、令和4年2月予定 選考方法：作文、面接

【契約職員・パート職員】選考日：随時 選考方法：面接

<お問合せ先> 秩父市社会福祉事業団 総務課 TEL：0494-21-5535 担当：加藤、長谷川

## 編集後記

令和3年も8ヶ月が過ぎ、早いもので後半戦を迎えました。1年の延期を経て東京オリンピック・パラリンピックが57年ぶりに開催され、選手の皆さんの活躍にはとても感動しました。

57年前のオリンピックは、アジアで初めて開催されたオリンピックでした。当時の日本は、戦争からの復興、そして、高度経済成長の真っ只中、時代が激しく変わる、まさにその時でした。

そして今年開催されたオリンピックは、この時の為に練習を重ねてきた選手たちの輝ける場所とコロナ禍という板挟みの中での開催でした。期日ギリギリまで中止、延期と様々な意見が交錯していました。

選手の活躍に感動しつつ・・・、コロナが世界に暗い影を落としている今日、このオリンピックが人々に少しでも希望の光となり、世界が明るい方に進んで欲しい。平和の中で人々が安心して暮らせるようになって欲しい。と、そんな思いを馳せました。頑張ろう！日本！頑張ろう！世界中の人たち！（信）

秩父市社会福祉事業団「Facebook」更新中！ <https://www.facebook.com/chichibu.honobonomytown>

秩父市社会福祉事業団 HP アドレス

<http://www.chichibu.ne.jp/~honobono/>



秩父市社会福祉事業団

検索

